

# サヤ取りコラム



## 目次

売買ルールを守る 2018.04.06.....	2
メンタルコントロール 2018.04.06 .....	4
ルーティンワーク 2018.04.06.....	6
大数の法則 2018.04.06.....	8
人の行く裏に道あり花の山 2018.04.06 .....	9
三猿金泉録 2018.04.06.....	11
損切りの重要性 2018.05.19 .....	13
片張りの経験則を捨てる 2018.05.19.....	14
プロのトレーダの勝率 2018.05.19 .....	16
決算期のサヤ取り 2018.08.20.....	17
シンプルに考える 2018.01.10.....	19
暴落にも強いサヤ取り 2019.01.10 .....	21
信じることの大切さ 2019.01.10 .....	23
一線を画す投資法 2019.01.10.....	25
リスク回避 2018.01.10.....	27
サヤ取りの優位性 2019.01.10.....	29
辛抱する木に金になる 2019.01.10 .....	31

## 売買ルールを守る 2018.04.06

どんなに素晴らしい投資法でも、「売買ルール」を守らなければうまく機能しません。

売買ルールを守るとは、銘柄選定、仕掛けと手仕舞いのポイントを決めて、一貫して守るということです。

そのルールが期待値プラスであれば継続して守ることで。

勝っている時でも負けている時でもルールを破ってはいけません。

勝っている時は、気持ちが大きくなりルールを超えて取引をしてしまいがちです。

逆に負けている時は、負けを取り返そうとしてエントリーしてはいけないタイミングで売買するなどしてさらに損失を拡大させます。

売買ルールが一定でないと結果が安定しません。

売買ルールがないと、いつも取引に悩むことになります。

また、売買ルールは、人によって資金量、運用方針、性格等が違いますので、自己売買ルールを確立する必要があります。

その為、売買ルールによっては、銘柄ペアを選ぶ基準、利益を確定するときの考え方、ロスカットの幅も違ってきますが問題ありません。

利益を出し続けている投資家の多くがマイルールを作りそれを守っています。

売買ルールに従って、ルール通りに機械的に売買を淡々と続ける事が、サヤ取り投資で利益を上げ続けるための考え方です。

もちろん、勝率 100%のルールなどありませんから、常に損失のケースも頭に入れておく必要があります。

そのため、たとえロスカットが連続で続いたり、予想以上の損失が発生したとしても、その後のトレードを、これまで通り機械的に続けられるように、ポジションサイズにも気をつける必要があります。

しかし、数回連続でロスカットになった程度で、「これは駄目だ」とルールをコロコロ変えてしまうのは良くありません。

最低でも半年間は継続します。

トレードの中には、必ず損をする時があります。  
損切りを含めルールですから、問題ありません。  
最終的に、利益のトレードと、損切りで終わったトレードを相殺した時に利益の方が大きい。これがトレードの稼ぎ方です。

売買ルールを確立させると、トータルで儲けが出るようになり、個々のトレードの損益が気にもならなくなります。

結果が満足のないものだったとしても、検証ができます。  
そして、修正していくことで期待値プラスルールに変わっていくということです。

目先の損益より、決めたルールを一貫して守ることが大切です。

## メンタルコントロール 2018.04.06

トレードの最大の敵は感情です。

人間は感情の動物です。

欲望、期待、恐怖、焦り、心配などの気持ちが行動に結びつきます。

トレードで、汗水たらして働いた大切なお金が一瞬で殖えたり減ったりすることで、この感情が揺れ動き 大きな損失を生み、残念なトレード結果につながりかねません。

つまり、トレードにとって最も重要なのは、メンタルコントロールなのです。

売買ルールがあっても、様々な感情が頭をよぎると、間違っただ行動の原因となります。

感情の乱れは自分のルールに従うことを妨げ、片張りや、損失を取り返そうと躍起になるリベンジトレード、損切り不履行、過剰売買等のマイナス行動だけでなく、正しい取引チャンスを見逃してしまうなど、多くの失敗を誘発してしまいます。

ルールを一度でも破ると、規律がなくなり何度もルールを破って大きな損失につながる恐れが出てきます。

また、疑念を持ったり、自分のルールが信じられなかったりすると負のスパイラルに陥ります。

メンタルが崩れれば、全てが台無しになりますので、自分の感情に焦点を当て、それをコントロールする必要があるのです。

感情をコントロールすることで、売買ルールが保たれ、利益が出ることにつながるわけです。

メンタルコントロールする目的は、「売買ルールを守るため」これに尽きます。

100%儲かる戦略は存在しません。

どんな戦略でも損失は出ます。

100%の勝率を求める必要はないということを理解して、損失を受け入れルール通り対処すれば良いのです

損失分を取り返せないのではないかと心配し、損切りを躊躇してはいけません。

勝ちトレードを思い出し、自信を持って損切りを行い、次の仕掛け候補を探しましょう。  
それによって、損失分を取り返すことは十分可能です。

仕掛けをした時に、損切りの位置を決めて、それを決めたら腹をくくることです。  
損切りがルール通りできると、メンタルも自然と安定してきます。

また、損失が続くたびに売買ルールを変更したり、複雑にしたりする必要はありません。  
かえって真の原因を探る事ができずさらに大きな損失につながります。

一回のトレード結果は、トレードそのものに大きな影響は与えません。  
長期の視点に立って、メンタルコントロールをして自分の売買ルールを守れるかどうか  
がより重要です。

利益が出て得意になったり、負けて落ち込んだりすることはとても自然なことです、  
トレードには、これらはすべて必要ありません。

メンタルをコントロールしている状態とは 平常心でいることを意味します

[目次に戻る](#)

## ルーティンワーク 2018.04.06

ルーティンといたらスポーツ選手がプレーの前に行う動作として有名です。  
その代表的なのがイチロー選手です。

彼がネクスターズバッターサイクルからバッターボックスに入り、静止して構えるまでに実に 17 種類のパフォーマンスルーティンが確認されています。

このパフォーマンスルーティンの凄いところは、毎回ほぼ同じスピードでゆっくりと行われ、その順番までも変わらないという点なのです。

イチローはこのパフォーマンスルーティンだけではなく、日常のあらゆることをルーティン化しているそうです。

ルーティンのメリットは、集中力を高める効果があるということ。  
迷わずに同じ作業をすることで精神的に落ち着き、余計なことを考えずにその場に集中できます。

いつも同じことを繰り返すと、「いつもと違うこと」を敏感に感じることができます。  
小さな違いに気づくことができるのです。

また、無意識の行動の質がアップします。  
私たちは、意識せずに行動することがよくあります。

意識して行動することに比べると、圧倒的に無意識に、自然と行っていることのほうが多いものです。

日々の習慣、行動パターン、思考パターン。  
その無意識に行っていることを、質の高いものにするために、ルーティンを活用するのは、

この力は、スポーツだけでなく投資やビジネスにも効果があるとされています。  
成果を上げる人は、ルーティン作業を卒なく効率的にこなしています。

ルーティング作業というと、いつも繰り返す事務作業的なイメージがありますが、望ましいアクションをするために行う習慣や行動のルーティンをつくるのが、成績アップ

につながっていきます。

トレーディングでは誰もが興奮するものです。

どのような場合でも、同じように、フラットな感情さえ維持できれば、興奮したり、感情的になることはなくなるはずです。

経験を積み重ね、やるべきことをルーティンワーク化できれば、その段階で感情的になる理由が失われるのです。

ルーティンワーク化が不完全だと、感情的なトレードになりやすく、思いのままに決断し、ちょっとした変化につられてしまうこととなります。

動いているチャートを見続けると気分は高揚し、冷静な判断ができなくなります。

感情的に落ち着いた状態へ持っていくというルーティンワークが身についていれば、負けないトレーダーへ変身する事ができるのです。

私がやることと言えば、毎日同じことの繰り返しです。

夜にペアチャートを確認して、仕掛け条件にある銘柄ペアを選定してエントリーします。後は手仕舞いルールに則り、利益が乗ったら利益確定、損が出たら損切りして終了。ただこれだけ。

利益の出る売買ルールをひたすら繰り返すということです。

そして、一日が穏やかに過ぎ、資産が少しずつ増えていくという淡々とした毎日です。

やるべきことを、決められたルーティンワーク通り、機械的におこなっていただくだけです。

サヤ取り投資はルーティンワークです。

ギャンブルではなく、ビジネスとしての投資です。

その為に毎日 10 分で良いので、サヤチャートをチェックしてトレードセンス（感覚）を磨いてください。

[目次に戻る](#)

## 大数の法則 2018.04.06

確率、統計の分野で大数の法則という有名な定理があります。

少ない試行回数では、確率通りになりませんが、試行回数を重ねれば重ねるほど、確率通りの結果が得られるようになるという科学的な根拠のある理論です。

例えば、サイコロを振って、理論上は1から6までのすべての数字が6分の1の確率で出現するかと思います。

但し、サイコロを6回振っただけでは、すべての数字が均等に出るわけではありません。試行回数が少ないので、おそらく偏った結果になります。

しかし、サイコロを100回、200回と振ると、どの数字も出現確率は6分の1に収束していきます。

サヤ取り投資も同様で、数回の取引で結論を出すのは時期尚早です。サヤ取りは従来の株式投資に比べ、確率的に非常に有利な投資法です。

市場は効率的であるというマーケットの原理に基づき、相関性が高く、サヤ（価格差）に開閉周期がある2銘柄は、一時的にサヤがかい離をしても、しばらくすると収斂する性質がありますので、それを利用して利ザヤを稼ぎます。

しかし、負けが続くと必ず疑心暗鬼になります。大事なのは、1回1回のトレードの結果ではありません。連続性が大事なのです。

損をするときもありますが、売買ルールを守ってトレードすれば、取引全体の損益で、最終的に利益を上げることができます。

更に、その回数を増やすことで利益を大きくすることができるということです。

勝率100%の投資法は、残念ながらどこにも存在しません。

「聖杯」を求め、投資法や売買ルールをコロコロ変えてしまう行為は、終わりのない旅に出ることになります。

## 人の行く裏に道あり花の山 2018.04.06

サヤ取り投資にピッタリの格言をご紹介します。

有名な格言のひとつに、「人の行く裏に道あり花の山」というのがあります。

山に花見に行っても大勢の中ではなかなか、花見を楽しむことができません。そんなとき人が行かない裏道を行くと、その先には誰も見たことがない花の山があるという意味です。

大衆と違う投資行動をとれば成功できるという教えです。

サヤ取り投資は、世間ではほとんど認知されていません。情報が少なく、手間がかかります。

株式投資に一攫千金の夢を見ている方が多く、時間を味方にコツコツと資産を増やす投資スタイルに魅力を感じないようでもあります。

相場（株価）の予測をしないで、どうして利益を得ることができるのかと、疑問に思う方もいらっしゃるかと思います。

通常株式投資とは、売買基準が全く違います。片張りの経験則を捨てなければなりません。ベテランの投資家は、相場観が変わると言います。

サヤ取りは、プロの世界では「裁定取引」と言い、同一の価値を持つ商品の一時的な価格差（歪み）が生じた際に、割高なほうを売り、割安なほうを買い、その後、両者の価格差が縮小した時点でそれぞれの反対売買を行うことで利益を獲得する取引です。

機関投資家などが、リスクを低くしながら利ざやを稼ぐ際に利用する手法で、株価指数等の現物価格と先物価格を利用して利ザヤを稼ぐ取引などが代表的です。

大きな資金が必要となりますので、個人投資家にはなじみがないかもしれませんが、それを相関の高い、個別の銘柄で行えば小さな資金でも実行可能です。

相場の世界では人と同じ事をしていては、儲けることはできません

成功者は誰もがやらないことを疑問を持たずに黙々とやってきたからこそ人生に成功できたのです。

欧米では「リッチマンになりたければ孤独に耐えろ」という言葉があるくらいです。人並みにやっていたのでは、人並みの結果しか得られないというわけです。

## 三猿金泉録 2018.04.06

サヤ取りの歴史は古く、約 300 年前からある投資法と言われています。

それは相場の聖典のひとつ「三猿金泉録」にサヤ取りの極意が書かれています。

「三猿金泉秘録」は 1700 年代に活躍した大阪の米相場師・牛田権三郎が書き残した相場指南書です。

サヤ取りは、もともと先物市場で盛んに行なわれている投資法です。

日本では 1730 年に、当時の江戸幕府によって公認された大阪の堂島米会所で「帳合米」と呼ばれる米の先物取引が始まりです。

実は 1848 年にシカゴで始まった穀物の先物取引は、この大阪堂島における米の先物取引が参考にされたともいわれています。

近代的な商品先物取引としては堂島米会所が世界で最も古いものといわれています。

また、題目にある三猿（さんえん）は、「見猿、聞猿、言猿」のことです。

三猿金泉録の原文を紹介します。

三猿とは、見猿、聞猿、言猿の三なり。

眼に強変を見て、心に強変の淵に沈むことなかれ。

ただ心に売りをふくむべし。

耳に弱変を聞きて、心に弱変の淵に沈むことなかれ。

ただ心に買いをふくむべし。

強弱変を見、聞くとともに人に語ることなかれ。

いえば人の心を迷わす。これを猿の秘密なり。

意味するところは、心迷わすものは見ない・聞かない・言わないということです。

様々な社会情勢や相場状況の変化などに惑わされたり、闇雲に情報ばかりに目を向け、他人の言葉に踊らされたり、また相場観や自慢話などを他人にしゃべりすぎらないように、平常心で相場に取り組むべきだと言う事です。

そこで大切なことは、周囲の雑音に惑わされずに自分で考えて投資判断を行えるように努力することです。

投資資金、投資方針、性格が違えば、仕掛け、手仕舞いルールも変わってきます。  
常に、自分は自分という考えを持って判断することが大切です。

投資家は、今までの経験則から、どうしても今後の相場展開を考えてしまう習慣が身についています。

株価チャートを見ると無意識のうちに「上げそうだ」「下げそうだ」と判断してしまうものです。

サヤ取りの場合、こうしたことが取引における不安や迷いとなり、仕掛けに躊躇したり、焦って手仕舞いしがちです。

サヤ取りは、相場全体の影響は受けない、他の投資法と一線を画す独自の投資法です。  
相場が上がるかどうかは、誰にも分かりませんし、気にする必要もありません。

株価が上下どちらに動いても、利益獲得の機会があるわけですから、ルール通り取引すれば良いのです。

資産はサヤ取りを続ける限りコツコツと増えていく。  
いきなり何十倍という大儲けの話は少ないが、大損という話しはほとんどない。  
秘伝の投資法です。

他人と同じ情報や方法に従って売買しても勝つことはできません。  
市場に翻弄されない投資法を確立することが重要です。

長期に渡り、受け継がれてきた、この独自の投資法を極めて、自立した投資家を目指して頂ければと思います。

[目次に戻る](#)

## 損切りの重要性 2018.05.19

サヤ取りは、安全性を最優先に、複数のペアを同時に仕掛けることによってリスク分散し収益チャンスを高めるものです。

しかし、毎回のトレードがいつも必ず儲かるというわけではありません。

儲かる時も損する時もあり、そのトータルにおいて統計的に勝てる確率が高いというものです。

それ故、損切りは重要になります。

損をしてくると（含み損が拡大すると）誰もその損を確定したくはないものです。

相関係数が高いからもう少し待てばサヤが縮むだろうと自分にとって都合がよい解釈をして損切りを遅らせたいくなるのです。

しかしそこが相関の崩れ初めのポイントだったりすることがあります。

その結果サヤが拡大を続け、我慢できなくなるまで損金を膨らませてから決済して損失額を大きくしてしまうのです。

これが負けトレードの最たるものです。

サヤ取りの安全性が高いというのは、きちんと損切りを行うことを前提に成り立つことであり、それができなければ投資で長期に利益を出し続けていくことはできません。

自分で決めた損切りラインで必ず損切りをする。

これが鉄則です。

サヤ取りの基本を守って、複数のペアを常にトレードしているなら一回の損切りは投入資金に対して数%にしかなりません。

仮に損切りが続いても、ルール通り投資を継続していけばその先には、次々とさやが縮まりしっかり儲かる時期を迎えることができるのです。

サヤ取りは、一発狙いの投資法ではありません。

長期に継続して行うことでその本領を発揮することができます。

当初の成績は始める時期や投資金額、投資スタイル、環境、個人の技量などの影響を受けさまざまに変化しますが、この投資を勉強しながら1年継続したなら、一年後あなたは高い投資スキルと投資マインドを身につけ生涯にわたって堅実な資金運用をしているためのしっかりとした準備ができていることでしょう。

## 片張りの経験則を捨てる 2018.05.19

サヤ取りは、売りと買いを両建てし、常にリスクヘッジをしながら、相場を読むことなく、上下どちらに動いても利益を追求していく投資法です。

しかし、これまでの株式投資の経験から、無意識のうちに株価が上がるか下がるかを考えてしまい、取引に躊躇する場合があります。

個別のチャートを分析したり、相場環境を考え、今後の相場展開を予測してしまい、逆に、仕掛け時における不安や迷いとなり、ルールを守ることができず、機会損失を招きます。

また、手仕舞い時においては、利益が出ている銘柄を利益確定する、いわゆる片はずしをして、損失が出ている銘柄は、「ここまで下がったのだから、そのうち回復するだろう」という安易な考えでルールを破ります。

これらは、まさに片張りの発想です。

リスクが増大し、思惑とは違った動きをすることが多々あります。

ルールを守って取引することが非常に重要です。

「なぜ相場動向を読むことなく、利益を上げることができるのか」と疑問の声も聞こえてきそうですが、結局は誰にもわからないのです。

今の日本の株式市場は、世界の動きと複雑に連動しており、グローバルな経済状況の中では、まったく予測できません。今まで通用していた方法が、まったくその通りにいかないのが現状です。

どの銘柄が人気化するかは、どんなに理屈をこねまわしても、結局のところ、あいまいな「予想」でしかありません。思惑が外れることが多いのです。

急激な市況変化や下落相場になると、対応が後手に回り、損をすることになります。

サヤ取りは、通常の株式投資（片張り）とは売買基準が全く違います。

株価が上がるか下がるかではなく、あくまでも 2 銘柄の一時的な価格の乖離に着目して、利ザヤを取る手法です。

株価が割安か否かという判定も、絶対的な価格によるものではなく、ほかの銘柄との比較による「相対的なもの」だということです。

相場が上下どちらに動いても対応できるポジションをとることで、心理的にも安心して投資活動ができます。

サヤ取りの本質を理解して、いかに片張りの経験則を捨てるかがカギになります。

## プロのトレーダの勝率 2018.05.19

皆さん、プロのトレーダの勝率がどの程度かご存知でしょうか？

ある講演会で、12年間、スイスで金売買のトレードしていた方が、辞めるときに仲間から勝率を聞かれて、答えたのが6勝4敗だったと語っていました。

仲間からは、「それはすごい！」と言われたそうです。

相撲で言えば、なんとか勝ち越しですね。

たぶん、皆さんは「なんだ、その程度か」と思われたのではないのでしょうか。

彼は、「勝ち越すためには、2連敗したら3連勝しなければならない」とも語ってくれました。

こう言われると「それは結構、難しいかも・・・」ですよ。

株取引で2連敗などは日常茶飯事です。

株取引をはじめの前は、8勝2敗くらいを想像しますが、そんな数字はプロでもなかなか難しいことなのです。

また、プロのトレーダは、全資金に対して2~3%の利益を狙います。

投資では、大勝ちしようと思わないことが大切です。

大勝ちを狙うのは悪いことではありませんが、裏を返すと、大損するという事に繋がります。

投資をギャンブル的に考えて大勝ちを狙うと、一気に市場から撤退させられるリスクが増えます。

プロ御用達のサヤ取り投資で、市場に落ちているサヤをコツコツ拾って参ります。

[目次に戻る](#)

## 決算期のサヤ取り 2018.08.20

サヤ取りは、相場全体が下落、上昇しても、ほとんど影響は受けませんが、個別の動きには影響が出る場合があります。

特に、決算発表時に業績の変更等がある場合は、サヤが大きく動きます。

決算内容は発表の当日まで全く分かりません。

業績が良くても必ずしも株価は決算の内容に比例して上昇するとは限りません。

下落する場合がありますので、事前に予測するのは困難です。

基本は、通常通りのトレードで良いかと思えます。

どんな局面でも戦略は変わりませんので、ルールに則り淡々とトレードします。

保有しているペアのサヤが一気に閉じたり開いたりしますが、結果は五分五分と考えています。

結果が早く出ますので、ペアを乗り換えるだけです。

重要なのは、ルール通り仕掛け・手仕舞を繰り返し、資金効率を高めることです。

サヤが急激に動くと、驚いてしまうことがありますが、逆にチャンスでもあります。

損切りもあるかもしれませんが、長期運用という視点から考えれば一時的な損失です。

大きくかい離したペアは、リバウンドがある場合が多いので、そこを狙って仕掛けをします。

サヤチャートを良く観察して、セオリー通り、相関係数が高く、サヤの開閉周期があるペアを選定してください。

安全を最優先するのであれば、決算発表日を避けてポジションを持つのも良いかと思えます。

スケジュールは、証券会社のホームページや Web で簡単に調べることができます。

但し、資金効率は落ちてしまうのがデメリットです。

ヘッジ効果が働く時もありますので、あまり神経質にならず、リズムを崩さないように取り組んでください。

## シンプルに考える 2018.01.10

サヤ取りは、極めてシンプルな投資法ですが、この方法が有効でかつ安全性が高いことは、数多くの億万長者を生み、今も多くの機関投資家たちの手で運用されていることから明らかです。

本来のサヤ取りは、個々の銘柄が高いか安いかを判断して仕掛けるのではなく、あくまでも銘柄間のサヤの動き、周期に着目して売買する手法です。

機械的に淡々とやるだけなので、企業の財務状況や業績状況のデータをもとに分析するファンダメンタルは、あまり関係がありません。

また、過去のチャートデータをもとに分析するテクニカル指標が沢山ありますが、難しい事は覚えなくても、シンプルなチャートの分析で十分です。

難しいテクニカル分析を組み合わせたことが、成績アップに繋がると勘違いしている方が多いのですが、実際に使える指標というのはとてもシンプルです。

サヤ取りは、シンプルなサヤチャートからサヤの動きを読み取る技術を磨くだけです。

サヤ取り投資は、難しく考えすぎないことです。  
余計なことを考えず、余計なことをやらない。  
複雑に分析する必要もありません。  
複雑にすればするほど、難しくなってしまいます。

サヤ取りにかかる時間は、1日10分くらいで十分です。  
そして、毎日同じ事を繰り返せば良いので、誰でも簡単に利益を上げることが可能です。

余計なことを考えずに、シンプルに行くのがベストです。  
直感を信じて行動するとうまくいくことが多々あります。

仕掛けをしたら、後は手仕舞いルールに則り決済するだけです。

また、投資ルールをアレンジしようと思うと基本的に良いことはありません。  
結果、投資ルールを曲げる事になってしまいます。

売買ルールと言うのは、人それぞれ、色々な前提があって出来上がっています。  
人のルールをゴチャゴチャ混ぜるのではなく、一貫してシンプルに守れるルールにした方が良いと思います。

売買ルールは、自分に合ったもの を見つけたら、その一連の流れを理解する事が重要です。

複雑なもの にすればするほどに実際に実行できないものです。  
どんなに優れていると思ったルールでも、使えないのでは意味がありません。

また、シンプルでないと、長く続けることができません。

そして、シンプルなルールにした事によって、成績を安定させることが出来るようになり、利益が増えるのです。

## 暴落にも強いサヤ取り 2019.01.10

日経平均株価は大きく値下がりしましたが、こういう事態にも慌てずに済むのがサヤ取り投資です。

買いだけの片張り投資を続けていたらいずれ限界がやって参ります。理不尽な暴落の煽りを受けて、儲けた金額以上の損失を出し退場を余儀なくされます。

こんな時は、テクニカル分析やファンダメンタル分析、過去の経験則も通用しません。

急激な市況変化や下落相場になっても対応できる投資法の実践と技術の習得がなければ、どれだけ情報収集・分析に時間とお金をかけて努力したとしても報われません。

投資の世界では「想定外」は言い訳になりません。

利益を優先するあまり、リスクをなおざりにしてはなりません。

相場(株価)いうものは自分の思惑とは違った動きをするものだという事を念頭に置き、「市場に翻弄されない」投資法を身につけなければなりません。

サヤ取りは株式投資に保険(ヘッジ)を掛けるという概念を取り入れた投資法です。

株式投資はリスクの高い投資ではありますが、リスクをできるだけ最小限に抑える為に売り銘柄と買い銘柄を同時に仕掛けることにより、相場の展開に左右されることなく、一方の損は他方の利益でヘッジするといった、極めて安全性の高い売買手法なのです。

市場全体が暴騰や暴落しても、戦略が崩れることはありません。むしろ相場が荒れた場面では、利益を得るチャンスが増えることが多いです。

通常の株式売買では、将来の株価上昇を予測して、安く買って高く売るのが基本です。この場合、相場の地合いも考慮するのが一般的です。

しかし、サヤ取りの場合は、相場全体の動きには直接影響されないため、地合いを考える必要がありません。

つまり、いつでも仕掛けができるということです。

当然ですが、個々のペアの仕掛けるタイミングは重要です。  
ただ相場全体の基調を考えて、何を仕掛けるかどうかを決める必要はないということです。

このことは“運用”という面から考えると非常に有利です。  
なぜなら、「地合いが悪い」という理由で、資金を寝かせておく必要がないからです。

相場環境に左右されない、リスクヘッジの効いたサヤ取り投資ならローリスクで資産を増やすことが可能です。

## 信じることの大切さ 2019.01.10

投資で重要なことは、「いかに信じることができるか」 に尽きると思います。

世の中には、株、投資信託、FX、仮想通貨等、投資対象先が沢山あり、また、さまざまな投資手法やテクニックがあります。

それぞれ違った特徴があり、メリット・デメリットがあります。

そこで、自分の投資スタイルを決めて、手本となるモデルを持ち、ルールを確立することが必要です。

必ず儲かるという投資はあり得ませんので、一定のリスクを抱えた上で、どこまで信じ切れるかが鍵になってきます。

損失が続いたりすると戦略や投資ルールに疑念が生じます。

投資手法を信頼し平常心で淡々とトレードを行うという、良いパターンの投資法も簡単に崩れます。

どのような状況にあっても、決めた投資ルールを守り続けることは難しいことです。

また、損失が出るたびに手法を変えたり、ルールを変えたりするようでは合理的なトレードは成り立ちません。

調子が悪いからとしばらくトレードを見送ると、今度は成績が上がってきて、実はその見合わせた期間にそこまでのマイナスが解消できたはずなのに、そのチャンスを見送ったために長期検証上の成績が手にできなかったといったこともありがちです。

手法を信頼すべきところを我慢しきれなかったがために、トレードが壊れてゆくという事はこういう形でも起こるものなのです。

投資は、信じられなくなった時点でおしまいです。

いったん、自分の投資スタイルを決めたのなら、それを少なくとも数年間は維持しなければ、公平な成果は出ないでしょう。

自分に取り組む手法を信じるためには、実はそれに取り組む段階で、これでダメなら仕方ないと思えるところまで突き詰めることです。

もちろん突き詰めたあまり、それにこだわって共倒れではいけません、淡々とトレードを行うためには最初からある程度の覚悟は必要だということです。

## 一線を画す投資法 2019.012.10

サヤ取り投資の優位性の高いセールスポイントは、独自のロジックで世間が気付かないお宝ペアを発掘できることです。

海外の機関投資家やヘッジファンドの大口売買に振り回されている先物や為替マーケットと違い、まだ荒されていない果樹園の実である利益をじっくり確実に収穫・獲得できるという事です。

つまり、通常の株式売買とは全く一線を画す運用方法です。

株式投資は、情け無用の厳しい世界です。

甘い考えのまま始めると、あっという間に身ぐるみをはがされてしまいます。

マーケットでは、プロと張り合わなければなりません。

個人投資家は、時間、知識、情報、資金量の面で不利な戦いを強いられているわけですから、まともに勝負をしても勝ち目はありません。

知人に東大卒の優秀なプロトレーダーがいますが、彼は、会社四季報の内容が全部頭の中に入っているというので驚きです。

そんな彼らに到底太刀打ちできませんので、プロと同じ土俵で戦わないことが賢明です。

株式投資の常識、王道に捕らわれない、全く違った切口で利益を取っていくサヤ取りは、市場を横目で見ながら、市場に落ちているサヤをコツコツと拾っていく投資法です。

相関の高い銘柄ペアの一時的にかい離したサヤは、相場が上がるか下がるかには関係なく、市場効率化に従って本来の連動幅に戻る過程で少しずつ確実に利益化していきます。

通常からかい離した銘柄ペアを発掘し、資金効率を高めたまま仕掛け・手仕舞いを淡々とこなしていきます。

しかし、過去の相関性と市場効率化の観点から見て、ペア銘柄の割高のものは売られ、割安のものは買われます。そして、いずれは売り買い両建てをした時点のサヤ（価格差）に比べてサヤは閉じていきますので、そのペア銘柄の含み損益は予定通りプラス化していきます。

このように、プラス化するのには時間の問題ですが、中にはもちろん相関性が崩れるものも出てきますので、そういったペアは、あえて塩づけにせずルール通り損切りし、新しいペアで資金効率を高めた運用を継続していきます。

従って、たまに、損切りマイナスが混じりながらもほぼ利益プラスが今後も続いていくという運用となります。

## リスク回避 2018.01.10

投資とは、長期に渡って継続的に運用するものであり、それによって利益が積み上がっていくものです。

投資をする場合、一番重要なことは、いかにリスクを回避するかです。

従来の株式投資手法では、市況分析や会社業績の調査を念入りに行った上で投資に踏み切っても、当たる時もあれば外れる時もあります。

日常的な売買で勝っていても、理不尽な暴落の煽りで、一気に損することもあります。一時的には利益を上げることはできますが、その後必ずと言っていいほど大きく負けま

す。

今の日本の株式市場は、世界の動きと複雑に連動しており、グローバルな経済状況の中では、まったく予測できません。

ファンダメンタルズ分析やテクニカル分析、過去の経験則や今まで通用していた方法が、ほとんど意味をなさないのが現状です。

株の専門家であるアナリストやストラテジストであっても、相場の方向性を予測するのは至難の業です。

その背景には、日本株の売買金額に占める海外投資家の比率が今や7割となっており、相場に大きな影響を与えています。

したがって今の相場は海外投資家次第ということになります。

海外投資家とは、ヘッジファンドのような機関投資家です。その動向は非常に読みにくくサプライズ的な動きをします。

当然、国内の機関投資家もいるわけですから、個人投資家の影響力は小さく思惑通りにいきません。

一般的に、海外投資家を買っているときは、日本の個人投資家は売っていますし、海外投資家が売っているときは、日本の個人投資家は買っているという反対の売買を行って

います。

外的要因に弱い日本株は、海外株式相場や外国為替市場などの動向に振り回されて翻弄されています。

また、市場の大部分は、人間の下す判断ではなく、コンピューターのプログラムに基づいて自動的に超高速・高頻度の売買を行っていますので、短期でボラティリティの大きい動きになるわけです。

時代は大きく変わりました。

マーケットで勝ち続けるためには、他者と違った視点、判断基準および損失を最小限に食い止めるリスクヘッジの売買技術を身につけておくことが必須になります。

リスクヘッジのノウハウを知っているのといないのとでは、長期的にはパフォーマンスに大きな違いが現われてきます。

リターンもさることながら、リスク管理に軸足を置いて、相場環境に左右されないことが大切です。

相場の変動に振り回されることなく、一貫した投資スタイルで運用できるものでなくてはなりません。

相場の変動リスクをできるだけ排除しながら継続的に運用するサヤ取りは、大変有効な手段だと思います。

[目次に戻る](#)

## サヤ取りの優位性 2019.01.10

買いだけの片張り投資を続けていたら、今回のような暴落時に大きな痛手を負うこととなります。

急激な市況変化や下落相場になっても対応できる投資法の実践と技術の習得がなければ、どれだけ情報収集・分析に時間とお金をかけて努力したとしても報われません。相場（株価）というものは、自分の思惑とは違った動きをするものだという事を念頭に置き、市場に翻弄されない投資法を身につけなければなりません。

個人投資家の多くが企業やテクニカル指標を熱心に研究し、その未来を予想して売買し、市場に翻弄されたあげくに退場していきます。予想には常にギャンブル的な要素がついてまわります。

後付けで株価を説明できる曖昧な投資理論は世の中にあふれていますが、そのロジックを元に継続的に売買することが可能な本当の売買ルールは少ないものです。長期間にわたってコンスタントに勝ちを重ねることは、熟練の投資家にとっても非常に難しいとされています。

ところが、「サヤ取り」という投資法では、その「非常に難しい」ことが当たり前のように出てしまいます。株価が上がろうが下がろうが、上昇相場だろうが下落相場だろうが、まったく関係ない売買システムだからです。相場の上昇下落はマーケットの常。世界的な大暴落も、半ば予定されているようなものです。そうした現象をマーケットのメカニズムとして理解して、どんな相場でも常にコンスタントに稼ぎます。

本物のサヤ取りを知れば、暴落相場も怖くありません。

投資に、「一攫千金の夢」や「スリル」を求めるのではなく、「安全確実に」「資産を増やす」という安定した資産運用を求める投資家向けの投資法なのです。

「サヤ取り」という裁定取引に辿り着いた方は、おそらく、片張りのリスクを十分に理解している人達ではないでしょうか。

「サヤ取り」を行なうことで、株式のギャンブル的な投資から抜け出すことができます。ギャンブルには、再現性がありません。今回勝てたとしても、次回は全くわかりません。投資スタンスには千差万別ありますが、リターン追求もさることながら、リスク管理

にウエイトを置くことが大切だと思います。

数万円の利益を軽視する人はサヤ取りには興味は示さないでしょう。

しかし相場を読むのではなく、上下どちらに動いても収益獲得の機会があることに優位性を感じる方、メンタル管理から解放されたい方は興味を持たれたと思います。

将来の値動きを予測することがいかに難しいことか・・・

相場に影響を受けない、リスクヘッジが効いたサヤ取りは大変有効な手段だと思います。

[目次に戻る](#)

## 辛抱する木に金がる 2019.01.10

サヤ取りという裁定取引に辿り着いた方は、おそらく、片張りのリスクを十分に理解している人達ではないでしょうか。

サヤ取りを行なうことで、株式のギャンブル的な投資から抜け出すことができます。

投資スタンスには千差万別ありますが、リターンの追求もさることながら、リスク管理にウエイトを置くことが大切だと思います。

一攫千金を夢見るのではなく、時間を味方に安定した資産運用を求める投資家向けの投資法です。

株の格言に「辛抱する木に金がる」というのがあります。

投資とは、長期に渡って継続的に運用するものであり、目の前の損益に一喜一憂することなく辛抱せよ、それによって利益が積み上がっていくものであるという意味の格言です。

辛抱と言うと、苦痛に耐えるというイメージがありますが、そうではなく「少し力を抜いて、やり過ごす」そんな意味合いです。

投資の中では、そのような辛抱が必要な時があります。  
ある程度辛抱すれば済んだことが、短気をおこしてしまい損することが多々あります。

焦らず、売買のタイミングを待ち、決めたルールを一貫して守ることで儲けることができます。

要するに、目標を達成したいのであればコツコツと努力をして、少々のことではブレていけないということです。

トレードの中には、損失に耐えなければならない時があるかもしれません。

また、葛藤や迷いが生じた時に、売買ルールを優先して、じっと耐えることが必要な時もあるかもしれませんが、それでも「サヤ取りが好き」と言うやる気が大事です。

投資生活を続けるモチベーションのために、サヤ取り投資に希望を持つことが大切だと思います。

しかし、希望を持つ人が1万人いても、挑戦する人はそのうちたった1%の100人です。そして、100人の挑戦者のうち、継続できる人はたった1%のひとりだそうです。

「継続は力なり」です。  
辛抱して努力を続ければ、それだけ得られるものも増えるのだと思います。

成功する人とは継続する意思をもった人のことであり、成功と失敗の差は、たったそれだけのことなのかもしれません。

何事にも辛抱した先に、チャンスがあるということです。

そして、投資をするなら自信を持って行うこと、冷静さを保つことも大切です。